

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幅ヶ谷九〇四 電話(03)337714649

振替 東京0158431 労金 東京労金本店No1154163 FAX(03)329915367

購読料 月額600円 6ヵ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

護憲社会党の若木を大きく育てよう

..... 2

兵庫・護憲社会党へのメッセージ

言葉だけが踊っている社会新党

..... 3

——日和見を捨てて勤労大衆の期待にこたえよう——

円高のメリットがなぜ大騒ぎされないの？

..... 6

——円高、ドル安の経済学(二)——

「イカの一夜干し」うまいよ

..... 9

ゆれる意識の背後に大きな階級の変動

..... 10

——統一地方選総括と課題(二)——

企業内労働運動に埋没するな

..... 14

——国鉄「分割・民営化」八年の検証(二)——

◇「社会通信」六百号に寄す◇

複雑怪奇な情勢に切り込め

岩井 章..... 16

◇好評発売中 上野建一著 社会通信刊◇

政界再編後を読む——護憲の旗を掲げて

A6判上製、二百頁、千五百円(千三百十円)

旬刊 社会通信

NO. 604

一九九五年五月二二日発行

一九九五年五月二二日発行
(毎月一日・十一日・二十三日三回発行)

■巻頭言■

護憲社会党の若木を大きく育てよう

兵庫・護憲社会党へのメッセージ

五〇年たつてせっかくそれなりに大きくなった社会党の老木は、よくみると枝葉が枯れてしまったばかりでなく、いつの間にか根もとからすっかり腐ってしまいました。

遠くから見てみると、この木はまだ生きてるようにも見えますのですが、もう大地から水や養分を吸い上げる力はありません。もはや民主主義の花を咲かせることも、護憲の実をつけることもできなくなりました。

ところがその枯木の横には、新しい木がすくすくと育っているではありませんか。想像を絶するような自然の猛威にもめげずに、倒れることもなく、いま若葉を芽吹かせ、蕾をふくらませています。この若木こそは、兵庫の地に生まれて、いまや全国各地にその種が運ばれている護憲社会党です。

古い木の枝に、疲れた体を休め、実をついばんでいた小鳥たちは、これから先どこに飛んでいったらいいのか迷っていましたが、近くに若木が元気に育っているのを見つけて、早くも二羽三羽、一〇羽二〇羽と、宿りに来ています。葉の生い茂ったこの木がなくては、小鳥たちはいつ鷹や鷲に襲われてえじきにされるかわかりません。

護憲社会党には、市民による市民のための街づくりがかかっています。

護憲社会党には、安全で快適な住宅の公的な保障がかかっています。

護憲社会党には、兵庫県民だけでなく全国の心ある人々の未来がかかっています。

護憲社会党には、どんな差別もなくそうという女性の期待がかかっています。

護憲社会党には、失業も老後の心配もない社会の実現がかかっています。

護憲社会党には、大胆な軍縮と、災害救助隊の創設がかかっています。

護憲社会党には、「不戦と非武装の誓い」の平和憲法の運命がかかっています。

護憲社会党には、子供の明日の幸せがかかっています。

だからこそ護憲社会党の若木は、大きく育てなくてはなりません。

そのためには六月一日の自治体選挙に、必ず勝ちぬかなくてはなりません。その勝利を期して五月六日の集いを成功させましょう。社会通信は力の限りの支援と連帯の挨拶を送ります。

言葉だけが踊っている社会新党

——日和見を捨てて勤労大衆の期待にこたえよう——

村山首相の甘い政治認識

村山首相は中国の上海で五月五日、訪中に同行した記者団と懇談しいろいろと話している。ある程度現時点での本音がでているので問題点を検討してみよう。

民主リベラル新党の相手として村山首相派は、新党さきがけを考えていることはすでに広く知られているところだが、しかしさきがけは新党づくりで、社会党と組むつもりはないことも明らかにしている。それに代るものとして無理して発足したのが両党の政策研究会である。この研究会について村山首相は「統一会派や新党に発展していく可能性もあるが、共同戦線党的なものでもない」といつている。新党にならなくとも連携を強めようという気持をいおうとしたのであろうが、「共同戦線党」というのは間違いである。共同戦線党とは別々の党が共通の課題実現のために一定の協定をして一つの党に合同することである。かつて（戦前ファシズムに対して）山川均が提唱したことがあった。

新党さきがけとの連携に熱心であるのはよいとしても、さきがけの性格、組織の現状を知っているであろうか。さきがけは自民党と組んで参院選、総選挙に生き残ろうとしているが、新党ブームの去った今、後退を続けている。組織も伸びていない。現役の国会議員後援会を中心に、自民と社会崩れや無党派を集めて道府県議の得票率は〇・五％に過ぎない（当選者九人）。

村山首相は政界再編について、何回かの選挙の過程で再編されると見る。「その場合にも、二つの保守政党になることはあり得ない」という。そして自由主義、資本主義体制からはみでる弱い層の意見を代弁する「社民リベラル」勢力が必要だ、といっている。さらに「当面はいまの連立の枠組みは変わらないと思う」ともいつている。

この社会党の委員長でもある村山首相の考え方には驚く。一、二回の総選挙で二大保守党どころか、自民中心の一大権力政党といくつかの小党になろうとしているのに、のんびりしたことをいつている。「小選挙区制」に賛成した立场上そういうのであろうか。社会党（新党になっても同じ）がその過程で議席の大部分を失おうとしているのに、首相の発言からは指導性とか求心力といった現在最も重要なことが消え失せている。

共同通信の発信する記事によれば、社会党の統一自治体選の結果について、村山首相は資料を見て「そんなにひどいのか」と絶句したという。そして今度の統一選挙結果からのシミュレーションによる参院選挙の社会党の獲得議席数は「選挙区で五、比例区で五」だとも伝えている。改選議席数が四十三だからその四分の一ということになる。まさに惨敗である。いわゆる政界筋の「常識」でも社会党は九から十三議席だといわれている。この厳しい状況に対して党の最高責任者のこの「甘い」というか、「無見識」というか、ひどいというしかない。疲れ過ぎているともいえる（ストレスも含めて）。これでは「首相が政権を投げ出すのではないか」という自民党幹部の一部にある心配もわかるような気がする。無責任な芦田連合会長や小泉元郵政相などは「役割は終った、上手に退場した方がいい

い」などといっている。「人柄だけではしのげぬ」ということか。

いずれにせよ社会党と村山首班の前途に明るい展望はいささかも見られない。

「護憲社会党」の旗を掲げよう

統一自治体選挙の結果を主体的に受け止めるならば次の通りであろう。

(一) 不況の長期化によって、社会の矛盾が大きくなり勤労国民の不満が政治不信となつて表面化した。人べらし合理化(会社と組合への不満・非難)に対してたたかってくれない社会党に批判が集中した。

(二) 借金問題などに見られる腐敗、その根源である政・財・官の癒着も少しも改められていない。自民党と社会党の連立は結果的にこれを覆いかくすことになり、自民党は復権し、勢力の拡大をはかっているが、社会党はその犠牲になって弱体化している。社会党が連立政権に参加している良さが何も感じられない。社会党らしさが失なわれていることに古くからの支持者の失望が棄権か、又は無所属候補に投票することになった。

(三) 消費税の廃止を公約しておきながら、これを破り、消費税率の引き上げを社会党の手で行なわれたことへの怒りが選挙に現われた。社会党の基本政策の放棄をはじめとする一連の社会党幹部の言動の変節に対しても怒りとなっている。

(四) 社会党公認という看板でたたかっている候補者にとつて、ただでさえ逆風であるのに「社会党ではもうだめだから新党をつくる」というような話しが中央から流れ、連日山花グループなどの反党的言動がマスコミを賑わしているという状況下でのたたかいがどれだけ苦闘させられたかわからない。解党派の言動について、支持者に言い訳をして歩かなければならない選挙活動は効果が上るわけがないのである。

(五) 労働組合が全体として組織的にも政治意識でも大きく低下していることに、具体的な対策も対応もせず、ただただ労組機関依存というやり方が完全にマイナスになった。信頼性のない労組幹部に近づけば近づくほどその候補は、ダラ幹の同類項と見られ、組合員はソッポを向いた。組織された勤労者大衆と共に闘うという姿勢がなければ(理念的にも)投票するという信頼は生れない。

(六) 会社(又は当局)と労組が一致して闘ったところは当選している。いわゆる企業ぐるみ選挙は相変わらず盛んであり、大きな民間労組の大部分は、自分の会社出身候補を出すか、出せない場合は自民か新進党かの候補を推している。会社、企業ぐるみ選挙との対決なしには護憲派の勝利はない。

(七) 政策的には、「社会党らしさ」といわれるものが地域政策も含めて不足していた。ことに大衆的又は住民運動と結びついた政策が欠落したところは支持票を伸ばしていない。「護憲」と「消費税反対」を明確にし、その中味の説明(演説)に力を入れた候補は勝利している。

以上の諸点からわかるように、社会党は抜本的に改革しなければどうにもならないということである。それでは、いま新党に丸ごと行こうとしている社会党を改革できるか、誰れが考えても無理な話である。したがって、憲法を世界と日本に広め定着させ、勤労国民の政党としての「護憲社会党」を再編し組織しなければならぬ。われわれは、護憲全国ネットを先頭に、社会党全国大会(五月二十七日)の直後に「護憲社会党再建準備会」の結成をめざしている。そして参院選をたたかい、社会党が新党といいながら流れ解散の

状態のなかでわれわれは「護憲社会党」の旗上げを成功させようというのである。護憲派とか左派とかいわれながらこの組織づくりに協力しない人達がいるとすれば、それは日和見主義者であり、勤労大衆の期待に背くものである。ことわざに「腐っても鯛」というのがあるが、社会党が鯛ならば「頭が腐った鯛」である。

新党論者のたわごとを斬る

四月二十六日、社会党新党問題検討委員会主催の「円卓会議」が開かれた。これに出席した学者文化人を新党にまき込もうという思惑であったがこれは失敗であったようだ。社会党は「民主リベラル新党」といつているが、リベラル派がいない。さきがけもだめ、旧民社系は一人だけ、ということから、学者文化人をリベラル派にしようとしての前記の会合であったが、展望のない社会党に力を貸すほどこれらの人達はおひと好しではないらしい。当日の発言を若干聞いてみよう。

今日の会合に女性私だけとはどうしてなのか。土井委員長時代に社会党に来た女性票はいま無党派に流れている（久場嬉子・東京学芸大教授）。村山内閣の政策転換はよかつたが、理論的に納得できない。新党を作るならばこの転換を理論的に示せ（島田晴雄・慶応大教授）。既存政党の中の再編でなく、新しい政党像を示せ。民主リベラルといつても言葉だけが踊っている（高橋進・東大教授）。競争による日本経済の再生を目指せ。農業、国内サービス産業など根本からリストラしないと日本経済はだめになる（中北徹・東洋大教授）。連立の時代に、なぜ、だれと、どういう条件で権力を行使するのか、はっきり分かる条件を考えてほしい（下斗米伸夫・法政大教授）。自己革新ができていない。マルクス・レーニン主義と絶縁宣言をし、社民の党として、長いことやってきたことを地道にじっくり取り組んだらどうか（塩田潮・ノンフィクションライター）。自立した市民を基盤に新しいネットワークづくりを目指すべきだ。いま、多くのグループを一つの政党にまとめるのは難しい状況だ（佳沢博紀・日本女子大助教授）。新党結成に政治決断すべきとき。タイミングを失してはならない（高木郁郎・日本女子大教授）。二十一世紀はネットワーク型の政治となり、集権的な党は機能しなくなる（高野孟・インサイダー編集長）。私は戦後一貫して社会党を支持してきた。護憲政党であり、金権政治にまみれぬ清潔さがあり、公正と平等を唱えてきたからだ。社会党の存在がなくなるとを危惧する人は多い。がんばってほしい（竹岡勝美・元防衛庁官房長・評論家）。社会党から国民が離れたのは自衛隊を容認したからではない（前田哲男・東京国際大学教授）。新しさの前に何をやってきたのか総括を。権力の中核で手をこまねいていて新党と言ってもインパクトはない（山口二郎・北大教授）。社会党は労組とともに無党派市民が支えてきた。その市民に何の説明もなく基本政策を変えたのだから離れるのは当然。今からでも市民と議論すべきだ（和田春樹・東大教授）、など。

社会党の久保書記長は、これらの人々にリベラル新党賛成者になつてもらいたいと思つていたようだ。が、出席者から「新党なんてできっこない」（日経新聞五月七日）という声が会議後かなりあった、という。二十一人の右の出席者中数人だけが新党賛成ということである。それでも五月二十七日の大会前に、労組、市民団体、学者文化人、個人などで新党準備会をアッチあげることを考えているようだ。マスコミも執行部は焦つていると報道している。

（政権研究班）

◇そこが知りたい◇

円高のメリットがなぜ大騒ぎされないの？

円高、ドル安の経済学 (二)

円はいったいどこまで上がるのか。外国為替相場の仕組みは、そして相場決定の仕組みは？

第六〇二号につづくものです。知りたいこと、疑問のこと編集部におたより下さい。
(編集部)

外国為替は異なる国の通貨の取引

Q この前、お話しした時から円が八十円を突破して七〇円台に入っちゃった。わずか二週間で十円以上も上がっちゃった。なんでこうなるの。一番わからないのはなぜお金どろしが売買されるかなのよね。

A あなた五月の連休中にイギリスに行くといってたね。

Q 年休たまってるし、生きた英語の勉強したいもん。

A もう準備できたの。

Q 準備なんて必要ないわよ。一人旅だもの。でも、イギリス・ポンドがいくらで買えるかは気になるわね。

A あなたはこれまでもアチコチ歩いてるから知ってるだろうけど、イギリスで円は通用しないよね。日本人がイギリスで買物するためにはイギリス・ポンドに換えておく必要がある。円を日本でイギリス・ポンドに換えていってもいいし、イギリスでポンドに換えてもいいわけだ。

このように、円をアメリカ・ドルに換える、あるいは円をイギリス・ポンドに換えるというように、異なる通貨を交換することを外国為替とか外国為替取引というわけだ。

Q 国境を越えておカネをやりとりすることなの。

だれがドルを買い、だれが売るの

A そういうこと。あなたイギリス旅行の予算いくら。

Q 五〇万円くらいかな。

A リッチだね。

Q そんなことないわよ。往復の飛行機代ふくめてだもん。

A いずれにせよ、五〇万円ぶんイギリス・ポンドを買うことはたしかだ。つい先日、九四年度の海外旅行者が一千二百万人超えたと伝えられてた。一人が五〇万円使うとして、六兆円になるのかな。

Q ポンドは昔は元気がよかったんだけど、いまはダメね。今はドルが世界貨幣だからポンドよりドルで考えた方が分りやすい。ドルならどの国だって通用するし。ということとは、日本からの海外旅行者は六兆円分の円をドルと交換したわけだ。一ドル百円として六百億ドルか。

A そういうこと。

Q 他にだれがドルを買うのかしら。

A 輸入業者がいるよね。円建、つまり円で払う方法もあるけど一般的にはドル建、ドルで払うんだ。ドルで支払うためには手持ちの円でドルを買わなきゃならん。

Q じゃ、輸出業者はどうなの。

A 自動車や電機会社などがそうだけど、ドルで輸出代金受けとるよね。あなたの会社は外資系ってことだけど、ドルで賃金支払われてる。

Q ドルでもらったってありがたみないわよ。銀行行って円にとっかえなきゃならんし、たった十日間くらいで十円も二十円もドルが安くなれば、賃金は目減りするだけでしょう。そんなのイヤよ。

ところで、サッカーやプロ野球の選手にやたら外人が目につくけど、彼らドル建でお給料契約してたらいへんね。

A サッカーの選手には円建で契約しているのがあるらしいけど、多くはドル建だろうから、「こんなハズじゃなかった」、「円建にしておけばよかった」とホゾをかんでる選手は多いと思うよ。

Q 逆にいえば球団側は円が上がれば上がるほど賃金分が節約できるってわけね。

A そういうこと。

Q じゃ、円高で経営者はいへんだと騒いでるけど、円高で得する経営者もいるってこと。
A 輸入業者がそうだろう。輸出業者だって原材料はみんな輸入品だからね。しかも海外で生産している場合には、人件費も安くなるし、実際は大騒ぎしてるほどにたいへんじゃないんだ。

話を元にもどすと、輸出業者はしたがって国内労働者の賃金支払いのため、ドルを売って円を買うことになるわけで、こうした円とドルの需要と供給の関係が円とドルの交換比率となるわけだ。

Q ドルへの需要が弱かったり、ドルの供給が多かったりすれば、ドルは下がり円が上がってわけ。

A そうそう。

Q じゃ一般商品と同じじゃない。こんなにドルが下がるといふことは、だれもドルを持ちたがらないってこと。

A そういうこと。ドル持ってたって目減りするだけだもの。

円高でなぜ大騒ぎするの

Q 円高、円高って騒いでるけど、円高のメリットとデメリットを説明してよ。

A まずデメリットといわれるものからみようか。たとえばタオル一枚が一ドル、二〇〇円で輸出されてたとする。ところが急速な円高で一ドル、百円になった場合、タオルの輸出業者はどうなる。

Q 一ドル、二〇〇円で売ってたタオルが一〇〇円でしか売れないってことだから、円の手取りは半分になっちゃう。さらにアメリカにすれば一ドルで一本買ったタオルが二ドル必要になるってこと。

A そう、輸出が伸びなくなるってことになる。だから輸出で大儲けしてた大会社は大騒ぎするってわけ。また円の手取りを今までと同じようにしようとするれば、値段を上げなきゃ

やららんことになる。値段を上げればますます売れなくなり、輸出が減るってわけだ。

Q 理屈はなんとなく分るんだけど、一九七〇年まで一ドル＝三六〇円で、今八〇円台前半よね。円はドルに対し約七〇%上がったんでしよう。大騒ぎするほどたいへんなことだとすれば、日本の貿易黒字はゼロどころか大赤字になってもいいんじゃないの。ところが円高になればなるほど黒字ふえてる。どうして？

A そうなんだよね。じつに不思議なんだ。円が上がる以上に、日本製品の生産価格が下がっているからだろうな。

Q それだけ合理化が進んでるってこと。

A すさまじい人減らしだろう。大きな会社の大工場にほとんど人はいない。しかも賃金は上がっていないんだから。円高以上に生産性が上がるとしかいいようがない。

Q フーン、私たちがみたいなの研究職じゃよく分らない。好きなことやればいいから。

円高にもメリットあるでしょ

円高のメリットもあるんでしょう。

A もちろんだ。最近、若者にもグルメブームだけど、あなたも一杯飲むことあるの。

Q たまにね。

A みんな輸入品だろう。魚も肉もそして野菜類も。工業の原材料はもちろんだけどね。最近では、日本のコメは高いから、オーストラリアの土地を借りて、そこにコメ工場つくればいいなんて乱暴な意見もあるくらいだ。円が高くなれば、これら輸入原材料は安くなるよね。一ドル＝二〇〇円が一〇〇円になれば、輸出とまったく反対のことになるわけだから。

Q 前は一ドル買うのに二〇〇円必要だったけど、今じゃ一ドルが百円で買えちゃうってことね。

A そうなんだ。でも国もそうだけど、メリットについてはいわないんだ。隠してる。そして円高がたいへんたいへんと「合理化」「生産性向上」を押し付けてくる。我々も少し勉強しなくちゃ。電力会社なんてそうだよ。原油の値段は、産油国どうしの競争の激化で安くなる一方だし、その上に円高だから儲かって儲かってしょうがないと思うよ。ちょっと電気料金が下がったって話は聞いたことはない。

Q そういえばそうね。じゃ鉄鋼業なども同じなんだ。原料はみんな輸入、これらの値段は安くなってる。円が上がるのは製品の輸出にはデメリット多いけど、全体的には騒ぐほどじゃないってわけね。

A そう思うよ。企業にすれば、安い労働力の国、たとえば韓国や中国、インドのような国で鉄の本格的生産が開始されているから、それらとの競争が容易じゃないということだろうけどね。

Q 日本の企業は海外に工場移してるんでしょう。

A すごいね、最近の動きは。日本のように公害規制はないし、税金も免除されるし、人件費が国内の十分の一から二十分の一だからね。その上に円高だから、人件費等々の諸経費はますます割安になる。

Q 円高にもメリットがあるけど、還元されず企業が一人占めしてるってわけだ。

A 旅行費用が安くすむってことは、それ以上に企業は得してるってことなんだけどね。デメリットばかり宣伝されてる。もっと勉強しなきゃね。

為替相場も投機

Q 今、世界中で一日どれくらい外国為替は取り引きされてるのかしら。

A 約一兆ドルといわれてるね。

Q 百兆円か、頭がクルクルしてきちゃう。みんな取引きなの。

A 為替で儲けたい連中が多いから、投機も多いよ。為替取引きは海外旅行費、個人の買物を除いてみんな投機とっていいと思うよ。

さきのプロ野球やサッカーの出稼ぎ選手たちだって、年間一億円で契約したとして、この一億円を、円にするかドルにするか、それとも為替相場にリンクさせるかでウンとちがつてくる。

たとえば一ドル＝二〇〇円で一億円の契約だと五〇万ドルになるね。ところが一ドル＝百円になれば五〇万ドルは円換算で五千万円に目減りしちゃうもの。ドル建では大損になる。一年に一〜二回、せいぜい五〇万円前後の旅行しかしない者には、為替で儲けるなんて発想は浮かんでこないけど、輸出会社にせよ輸入会社は年間何億ドル、何十億ドルのお金をあつかうわけだから、為替相場がどうなるかは死活の問題にもなるんだよ。だから毎日毎日、売ったり買ったりにぎやかだつてわけね。

そうした資金が一兆ドルちかく投ぜられてるというわけ。

Q 為替相場はバクチか？

A 今の社会体制ではそうなるってこと。ここが重要なんだ。ぼくは競馬やらないけど、枠順、単勝なんか馬番なんて投機性の高い賭け方がとり入られたらう。

公定歩合が1%、銀行に預けてもインフレを加味すれば利子はゼロかゼロ以下だろう。金あるところには腐るほどある。腐らせるわけいかなないから、そうした投機先にどんどん流れていって、円がますます高くなつてるといのが、いまの特徴かな。(つづく)

「イカの一夜干し」うまいよ

全国の国労闘争団は、企業組合等を作り自活体制を強化しています。私たちの東京中部(千代田・中央区)には稚内闘争団が常駐しオルグ活動を展開していますが、稚内闘争団も有限会社「ユーズカンパニー」を設立し、水産加工業や警備業、土木作業を行なっています。

稚内闘争団の独自物販「イカ一夜干し」の販売を拡大しようと闘争団の現状や団員紹介を中心にした「北のイカだより」(通称イカ新聞)を昨年から発行し、なんとか第一〇号まで発行することが出来ました。当初「イカ一夜干し」だけだった水産加工もホッケ、ニシン、宗八カレイと品数も増え着実に軌道に乗りつつあります。それに伴い不定期だった「イカだより」も月一回の編集会議の開催で定期発行になりつつあります。

四月二十六日に一〇号発行記念と今後の編集方針等を決めるパーティーをささやかに催しました。当日は滝野嘉津子サンからお赤飯の差し入れもあり、稚内手作りのイカ刺し等で盛り上がりました。「社会通信」の六〇〇号には及びもつきませんが国鉄闘争の早期解決を目指し、闘いが続く限り闘争団を支援・連帯し「北のイカだより」の発行を継続することを確認しました。

稚内闘争団の「一夜干し」を購入すると手前味噌ならぬ手前新聞「北のイカだより」がもれなくついてきます。お読みになりたい方はぜひ「一夜干し」の購入を。(吉田)

◇統一地方選総括と課題（二）◇

ゆれる意識の背後に大きな階級の変動

東京、大阪の知事選で青島、ノック両氏が既成政党に「意地悪」ぶりを発揮し、「パンパカパーン」と凱歌（がいか）を上げた。この結果、一躍「無党派の反乱」が喧伝される事態となった。

今次選挙総括の最大の焦点は「無党派」の増大をどうみるか。新聞では「自・社敗北」といわれるが、その真の実態をどうみるかだ。選挙をたたかった仲間から感想を出していただいた。

（編集部）

ゆれる支持なし層

司会 統一地方選結果をどうみるか。お三方から一言ずつお願いしたい。

A 特徴は二つ。一つは大都市圏で既成政党に強い批判があらわれた。その典型が東京と大阪だったということ。二つは社会党の惨敗、一人負けと共産党の伸び悩み。したがって、いわゆる「護憲勢力」の後退が指摘されなければならないのではないか。

B 政党支持なし層の拡大、それが青島、ノックに流れた。したがってまず第一に「無党派の反乱」といわれる現象の階級の背景をさぐる。二つに、社会党は予想より健闘したんじゃないかとの見方もあるようだが、それをどうみるかということだ。将来のわれわれの進路にもかかわる課題だから。

C まず投票率が低かった。ここ二、三年の傾向だよね。この背景をさぐる。ことだと思ふ。第二は選挙制度の改悪で議員の顔が見えなくなった。その分、マスコミ主導の選挙がより露骨になっているのではないか。青島、ノック両氏の当選についても、終盤戦の調査結果が、一つの流れをつくったといえるのではないか。

自民は負けたのか

司会 Aさん、一般的な選挙総括では「自社惨敗」ということだが、自民は負けてないということか。

A 自・社ともに大きく議席を減らしてる。前半戦の道府県議選では前回比マイナス二二七の一二七五議席。政令市議選では同じくマイナス一九の二一九議席で従来の枠組みからいえば惨敗です。しかし旧自民勢力の新進が一四〇と五二、さきがけが九と三をとっている。これらを合わせれば道府県議選で旧自民勢力は一四二四、政令市議選で二七四になる。政令市議選では三六議席ふやしてるし、道府県議選ではマイナス七八にすぎない。

自民と新進、さきがけは地域に行けば「本家」と「分家」みたいなものなんだ。しかも後援会組織では複雑に絡みあってる。「本家」と「分家」が旧戦国時代同様に血で血を洗う抗争を展開しているところもあるようだけど、岩手や三重を除き限られてる。七〇年代後半の傾向は自民勢力は「地域の利益」を優先し、無所属化が進んでますよね。今回、旧自民勢力の「分裂」を嫌って、無所属で出た旧自民はふえてます。自民と会派を同じくする議員は前回を超えることになるんじゃないですか。

後半戦の市町村議選でも同じことがいえると思う。だから、旧自民勢力は総体として負

けてはいない。いわゆる「草の根」からの改憲勢力は今の国会の会派構成により近くなり、従来の「護憲対改憲」の力関係にも大きな影響を与えているとみるべきだ。

支持なし拡大は社会党の動揺とも関係

司会 社会党についてはどうか。

A まず立候補者が激減してる。党勢をはかる上で一番重要なのはこの点だ。道府議選で二ヶタの当選者を確保したのが北海道二三（前回比マイナス五）、秋田（同プラス二）、神奈川県二二（同マイナス六）、新潟二一（同マイナス二）、長野二二（同プラス・マイナスゼロ）、大阪（同プラス二）、福岡一七（同マイナス三）という状況で、全体的には六プラス・マイナス三でしょう。得票率も前回の一五・六%から一一・六%になった。

個々の議員候補ががんばったことは高く評価しなければなりません。しかし、社会党への熱い想いと別には、全体的な傾向については想いは想いとして、冷静な判断が必要だと思ふのです。

司会 こういう意見もありますね。社会党系無所属を含めれば三四二になり、前回に比べ惨敗といえないのではないかと。

A 日経や読売にそんな論調がみられます。そのデンでいけば自民は一二七五プラス一九九、新進は一四〇プラス一二二、さきがけは九プラス九になるんです。これを合わせれば旧自民系は一七五四になる。旧社会党系は二七七プラス六五で三四二、前回は九議席上回ることになるが、旧自民勢力は二五二議席ふやしていることになるんです。この論議には説得力はないと思えますよ。

こうした論議が乱暴なのは、旧自民勢力が「普通の国家」と「護憲的改憲論」に現状かかっている傾向があるにせよ、「憲法改正」では大きな違いがない。だから情勢の動きいかんで、いつでも「再婚」できるんです。しかし、社会党系は深刻です。社会党系無所属には政界再編を読んで自民に行くことを考える人、新進と行動をとる人、私は「ゴケン」だから今の村山・久保執行部にはついていけないという人びとの対立が鮮明ですから。

司会 それは社会党公認でたかかった議員にもいえる。

A そうなんです。だから、旧自民勢力は一部を除き仲・良・く・ケンカできる。こうした状況をつくってしまったところに、現在の政治不信、したがって政党支持なし層の拡大、投票率低下の原因がある。

共産党の実態も深刻

B 多くは社会党が減る分だけ共産党がもう少しふえるかと思ったけど。

A 共産党の選挙総括は「善戦・健闘」ということだけど、ふえてないね。

B 数字はどうなってるの。もちろん前回との比較でだけ。

A いわゆる県議ではマイナス二の九一、政令市議マイナス二の八二、市議選マイナス三〇の九四〇、東京区議選プラス五の一五六という状況。町村議は八六四で群をぬいてる。

司会 町村議員の会派構成どうなってますか。

A 全議員数二万一四六人で、無所属が一万八四八一人。政党公認当選者は多いもの順に共産八六四、公明四二〇、社会二五八、自民九九、諸派一七です。

B 共産全体としてはふえてないわけだ。
A そういえる。

B なぜなんだろう。共産党が社会党の減った分だけでもふえれば、「護憲勢力」の将来も楽しみがあると思うんだけどな。

C ぼくは商売がら「赤旗」「評論版」「前衛」等々をとってるんだけど、ここ二、三年おもしろくないね。団地の同じ棟に六期も議員やってる熱心な共産党の議員さんに、「評論版いらないよ」って断わっちゃった。しばらく前まで使える記事があつたんです。ところが今では皆無とわいていいから。「赤旗」もやめようかと思ってる。「前衛」は昔からおもしろくないからね。

B なぜおもしろくないんだろう。

C 視野が狭くなってるんじゃないか。中国の天安門、ソ連の崩壊等いろいろあつたよね。ゴルバチョフの新思考に不安を感じてたけど、ローマやベルシャ、もつと逆のほれば中国の古王朝の時代のように、あんなにアツという間に消滅するとはじつさい考えられなかった。

ところが、彼らの思考は「今も冷戦構造がつづいている」「社会主義世界体制は存在しなかった」というものだろう。宮本氏は身体が弱っているようだけど、不破氏や彼のソツクリさん志井さんの講演、演説、「大論文」の引き写し。共産党員への教育にはこれでもいいのかもしれないけど、ぼくらはついていけない。というわけで、支持者がせばまってるんじゃないか。私の友人には「セクト集団化したんじゃないか」というものもあるよ。

B なんとなく分る気はするね。ソ連の社会主義体制が一九一七年以降世界に比類ない影響を与えつづけたことはたしかだし、社会主義世界体制は存在しなかったといつても、客観的には説得力をもたない。

C ぼくもそう思う。論理のすべてがそこから組み立てられるのだから、「セクト集団」という批評も分らないわけじゃない。

B しかも、共産党は現実問題じゃプラグマティックだし。体質は一番旧いんじゃないの。党勢も容易じゃないんじゃない。

C そうらしい。統一地方選後半戦の総括文書では前大会にくらべ党の実勢は「赤旗」八七・四%、「日曜版」九一%、党員二万六千人減とたしか書かれてた。

司会 共産党だけじゃなく、同じことが社会党や無党派といわれる「護憲派」にもいえるんじゃないですか。いろいろあるだろうけど共産党はまだ立派じゃないの。

C おっしゃるとおり。我々もつとだらしなないかもネ。

選挙法改悪でマスコミ主導選挙に

司会 Bさん、なんで青島、横山氏が万全と思われた政党相乗り候補に勝つたのかしら。この問題を説明が、将来の「護憲派」の消長に直結すると思うのです。

B 今の日本はマスコミ天国だ。一億総評論家といつていい。女房の友人なんて「私、オウム博士になっちゃった」って電話してくるくらいだから。ところが、マスコミに専門家といえる人はほとんどいない。本社には科学部なんてあるようだけど、自然科学のプロは皆無といつていいんじゃないですか。その彼らが得体の知れぬ評論家を動員し、当局情報を分析することなしに、好き勝手なことをしゃべりまくってる。

今の政治状況もこれと同じだと思う。細川時代、マスコミは政治改革、そしてもつとも

黒い小沢を「改革派」として持ち上げた。今は知らぬ顔の半兵衛を決めこんで小沢君批判だろう。とにかく群れて流れる急先峰がジャーナリズム。高学歴家したといわれる日本だが、底が浅く薄いマスコミ情報―そのほとんどが政府情報―に右横左横しているのが、現状だと思う。マスコミに寄生している私にとってザンキの至りだ。

内情をバクロするようで心楽しくないのだが、大ジャーナリズムの記者は忙しすぎるんです。暇な人はいるんですよ。よく編集委員という肩書きで出てくる人です。でも彼らは四〇歳後半で「大人」です。現状にチャレンジし、変革する精神は稀薄です。こうしたつまらぬことを申し上げたのは、今のマスコミの主張を判断材料にしてはいかんとということなのです。

情報はくさるほどあります。肝心な点はそれら情報を一人ひとりはどう客観的に考えるかです。正直申し上げ、書いてる本人がこれの本質を理解せず、タレ流しているだけなのですから。

司会 そうともいえぬ記事があるんじゃないですか。たとえば「朝日」がおこなった静岡市に重点を定めた「分析」新「無党派層」(四月六日、七日号)のような。

B この分析はおもしろい。しかし、前提がある。八九年以降の政界の流動化、それに政界再編、労働運動の体制内化、社会党の右傾化等々からもたらされたいわゆる「市民」の意識変化をどうとらえるかなんです。

司会 具体的には…

階級関係は大きく変化

B 中曽根内閣時代の「臨調行革路線」以降、日本社会―世界的にもそうなんです―が―げしい時代に入ったことです。

第一に、八九―九〇年の時、「三点セット+ α 」の矛盾が自民党支持基盤を揺り動かしました。土井さんが社会委員長時代の、「ダメなものダメ」と山が動いた時です。この時代の変革を強調したのは「社会通信」だけじゃなかったですか。「三点セット+ α 」の矛盾は自民党支持基盤の動揺と崩壊をもたらさずにはいない、と。

司会 「通信」で当時強調されたことは、コメの自由化は従来の自民党のもつとも強力な支持基盤の崩壊を必至とする、消費税導入は政治を利権者だけでなく、家庭の論議とする、リクルートにあらわれた政治腐敗は政・財・界腐敗に直結する。「+ α 」の矛盾は労働組合のだらしなさとも相まって、流動的な浮動層を形成するといったものですね。

B そのとおり、現にそのとおりになったでしょ。金丸事件で自民は分裂、従来の政治的枠組みはくずれ去りましたから。

この時、社会党がことの本質を理解する能力をもっていれば、時代は変わってたんです。ところが、土井さんが委員長をやめさせられ、金丸君のお友達の田辺という野郎が委員長になり、バカ花君とやゆされる山花君が書記長という重職に就いちゃった。その後が、バカ花委員長、オソ松君―実名忘れちゃった―が書記長でしょう。そして小選挙区導入、細川内閣ですから、国民(労働者は六千万人)はあきれ果ててしまった。

従来の社会党方針を堅持すれば、単独内閣も夢じゃなかったんです。階級関係に激動が生まれてたのですから。連合なんて鴨長明の書の前文じゃないですが、「うたかた」みたいなものでしたから。

(つづく)

◇国鉄「分割・民営化」八年の検証(二)◇ 企業内労働運動に埋没するな

共闘の拡がりから職場の実態を見つめよう

前号につづき、国労東日本本部主義の「JRの安全・サービス・労働を問うシンポジウム」から報告する。報告者は国労顧問弁護団の一員で日本労働弁護団の鶴飼良昭氏。

氏は横浜人活裁判等国労闘争に全力をつくすかたわら、「雇用二一〇番」をもとりくまれていた。氏の問題意識はこれからの労働運動を考える場合にきわめて重要である。

(編集部)

のたうち回る企業社会

日本の経済がなりたたないような大動脈JRに存在する不当労働行為(戦後の労働運動にかけられてきた集大成の攻撃)のなかで万単位の人が残ったのはかつてなかったことである。

企業社会の行き着く先ともいえるべき様々な問題点が構造不況のなかであらわれている。企業社会そのものがのたうち回っている。一九七六年、桜田日経連会長(当時)は田中角栄がロッキード事件で逮捕されたときに「政治家のトップ首相が逮捕された混乱なときでも、労資の安定帯・警察組織・裁判所がしっかりとあれば大丈夫である」と言った。最初に労資の安定帯を上げている。

当時のIMF・JCには労働組合は存在していない。会社の労務管理の一環として労働組合が存在している。労働組合が会社と一体となって肩たたきをする・労働者の首切りをおこなう事態にあった。

そのような戦後の企業社会がこのような日本に押し上げてきた。その中で労働組合がなばって行こうという人達はどんどん切り崩され、少数派になっていく状況にあった。イデオロギー、差別・分断攻撃もふくめて、日本の基幹産業で成功したやり方が国家規模でなされたのが国鉄「分割・民営化」である。いま、労働組合らしい労働組合を職場に守りつづけていく意義はおおきい。戦後の労働運動が受けてきた弱点を国鉄闘争がどのように克服してきたのか総括していただきたい。

一つに企業主義に対して労働組合の側の理念・目標を対しすることができなかった。二つに労働者一人ひとりが社会の主人公として参加していることが、労働運動のなかでは十分できなかった。一人ひとりが自分の意思で自発的に自分の要求で参加するべきであるはずであるのに、動員、指令などの言葉がひんぱんにつかわれることに違和感を感じる。

職場の主人公である労働者が、主人公として労働運動のなかで扱われていない。一人ひとりの労働者の顔がみえない。安全・サービスは、組織拡大、住民に話していく手段として活用してきたのではないか。働いている意義を考えると、公共交通機関のもっとも重要な点は安全でありサービスである。いかに人間らしいサービスを提供するのが労働の中心であり、それを通じて労働者としての自己実現、労働者としての喜びを感じられるはずである。

日本が豊かなのは働く者が貧しいから

一人ひとりを人間として尊重していく、公共交通機関をになっていくすべての人達が人権を尊重して労働者としての要求を満たしていくのが、公共交通機関の任務である。地方交通線の問題で自覚しつづけてきたのではないか。万単位で残り、新しい組合員が入ってくる魅力がその辺にあるからだ。

そろそろ企業⇨労働者の幸福という考え方は違うのではないかと気づきはじめている。終身雇用という幻想があったが、企業の側からかなぐりすてはじめてきている。六〇歳まで企業に残れる人は大企業でも二〇%しかない。なかでも在籍出向が非常に多く、ほとんどの労働者は六〇歳まで企業のなかでいき残れない。さらに最近では、労働弁護団に相談にくる人たちは四〇歳から五〇歳でほとんど残れない状況である。企業のなかでいることが自分の幸福につながると思って疑わなかったが、「これでは自分の生活がなりたない、生活設計がくるってしまう」と連日のように相談に来ている。

神奈川の労働センター（東京では労政事務所）にたいしての相談が、昨年から今年にかけて一万件（例年二から三〇〇〇人程）を越す状況である。日産社長は「企業にとって合理化はエンドレスである」と言っている。日本で搾りきれなかったら、エンドレスの合理化で海外に進出していく。日本産業の空洞化と根本的な構造はなにも変わっていない。日本の基本的な構造として、企業中心主義の企業のコストをいかに下げ利潤を上げ、あまった利潤は労働者に分配しないで海外投資とかにするという基本的な構造がかわらないかぎり大失業・大不況の時代をむかえ、破局すると予言している経済学者がいる。

フランスの社会学者（ボード・ジュアール）が、阪神大震災の現地に行き語ったことが新聞に掲載されていたが、「こんなに豊かな、世界第二位の経済大国日本のなかで、阪神大震災がたつて一ヶ月もたつのに二〇万人の人たちがホームレスとはいったい何なのか。日本は経済に豊かな国ではないか、災害にあった人たちがホームレスに投げ出されている。国際的な富の蓄積があっても再分配に問題があるのではないか。日本という国が豊かなのは、日本人が貧しいからだということも成り立つのではないか。国が豊かであることはまづは一人ひとりが豊かであることという欧米存在主義とは違うモデルを追求しているのだろうか」という皮肉を言っている。

変革する力は労働運動をふくめた大衆運動である

企業⇨自分の生活ではない。では何を頼りに生きていくのか。自分でしかないし、一人でも立ち上がろうとしている。第二番目に大事なのは、上からの組織化ではなくて、ネットワークという形で一人ひとりが社会の労働の主人公であるというネットワーク化が必要である。

労働弁護団では「労働相互活動を全国に展開していこう。職場のなかで何かあったときに相談に駆けつけられるような労働相談をネットワークにしていこう。はたらきかけるルートをつくって行こう」と一人ひとりの労働者に力を与える、立ち上がらせる武器をあたえる。

公共交通機関の仕事をするJR職場の足元に膨大な数の不安定労働者群がいる。弘済整備などの出向事件を担当して、国鉄労働者がそこに行ってはじめて職場の実態を知り、不

安定労働者のすさまじさが分かったといっている。そういう人たちと共に公共交通機関がそのようなことでもいいのかと要求する。利用者として圧倒的多くの人たちが働き利用しているわけです。利用者と要求を結びつけて要求を一致させていくことを訴えたい。

労働は企業とか利潤に従属するものではない。人間の尊厳の具体的なあらわれとして労働といっている。私たちは企業に従属する存在ではない、企業主義にかかわる理念というのは労働のなかでいかに人間化を勝ち取っていくのか。労働は生活をえるための手段であること、労働の本質的な内容を労働のなかで目標として掲げていくことである。

人々が立ち上がってゆく力を信頼できるのかということが、労働運動を、社会を変革させていくものにしてゆく。階級的な労働組合の幹部の人でさえ、組合員を信頼していない発言を聞くことがある。そういう発言をする幹部に幻滅を感じる。大衆的な労働運動が健全な力をもっているなかで、そこで働く人たちが立ち上がるようになるエネルギーを信じられるか、信じられないかになっている。

(K)

◇「社会通信」六百号に寄す◇

複雑怪奇な情勢に切り込め

岩井章

「社会通信」が六〇〇号を迎えたことを心からお祝い致します。

一口に六〇〇号といっても、二〇年という長い年月をひとつの目的を目指して、こつこつとやってきたことを思えば、それは大変な苦勞であったと思います。

「社会通信」が今日まで発展してこれたのは、発行人の滝野忠君の創意と努力の賜物でありました。もっと正確に言えば、滝野君夫妻の努力の賜物でありました。私は滝野君とほとんど毎日顔を合わせるほど親しい関係でしたから、彼が汗みどろになって苦勞する様子を見て参りました。ここでいう努力とは、正しい編集方針があつて、初めて実を結ぶものであります。

「社会通信」は創刊以来、一貫して労働運動と、社会党の階級的再建を編集の大方針としてきました。だから、国労労働者に対する不当労働行為に向けて、怒りの健筆が毎号のように紙面を飾ったのであります。このような一貫した姿勢を、多くの読者は支持したのであります。読者の支持がなければ、編集者がどんなに努力してもなりたちません。

情勢は国際的にも国内的にも、より複雑になってきました。「社会通信」も、この複雑な情況の中で、進むべき道を指し示していくことは、決して容易なことではありません。「青島幸男」や「横山ノック」が、独占資本、官僚、自民党の連合軍を一蹴したのは、近来にない快挙でありました。社会党は、看板を塗り替えて新党になるといっています。もちろん私は護憲を柱とする社会党が正しいと思っていますが。

また、円高はマスコミが言うほど悪くないと思っていますが、どうでしょうか。また、「サリン事件」と騒がれるオウム真理教は、何を狙っているのでしょうか。この辺のことになると、なかなか難しいことですが、課題でしょうね。まだまだ課題は多くありますが、総合雑誌でさえやれないことですから、欲張りと言えらるでしょう。

とにかく、滝野夫妻のますますの奮闘を心から願って、次の二〇年の大きな成果を期待しましょう。